

IV 果樹

実況

10月は、12日に最接近した台風19号により関東・東北を中心に死者90人を超える大きな被害を生じた。日照時間は127.5時間で平年より15%少なかった。降雨日数は18日で平年(=13.2日)より多く、降水量は平年より63%も多かった。真夏日は1日(30.6℃)と3日(30.3℃)の2回あり、1日が最高気温極値であった。一方、最低気温極値は8.9℃(16日)で、日最低気温10℃以下はこの日だけであった。10月の平均気温は平年比+1.9℃と高かった。最大瞬間風速15m/s以上の強風は、台風18号により3日(21.9m/s)、台風19号により12日(22.3m/s)・13日(19.1m/s)が記録されている。

11月の日照時間は153.0時間で平年より37%多かった。降雨日数は15日で平年(=17.6日/月)よりやや少なく、降水量は平年より60%も少なかった。夏日の出現はなく、月最高気温極値は22.3℃(18日)であった。一方、日最低気温は2日以降連日10℃以下となり、最低気温極値は0.7℃(29日)であった。11月の平均気温は平年比+0.5℃とやや高かった。最大瞬間風速15m/s以上の強風は、低気圧通過により25日に16.8m/sが記録されている。[以上、福井地方気象台の観測データに基づく]

1 ウメ

(1) 生育状況 (園芸研究センター)

11月上旬から本格的に落葉が始まり、11月20日現在、「紅サシ」で30%程度落葉している。

11月20日調査「紅サシ」の短果枝花芽密度(暫定値)は1.86個/cm(平年1.67個/cm)であり、平年より高い。

(2) 地域状況

11月末現在、各地でせん定作業が進められている。

ウメ花枝は12月2日から計6回の集荷で150万本の出荷が計画されている。

2 ナシ

(1) 生育状況 (農業試験場)

11月19日現在、「幸水」はほぼ落葉し、「豊水」は6割程度落葉した。

(2) 地域状況

落葉は、平年並みに進んでいる。「幸水」などのえき花芽の着生は園により差はあるが、おおむね良好である。

粗せん定が終了し、本せん定が始まっている。

3 カキ

(1) 生育状況 (農業試験場)

「刀根早生」は10月16日から収穫を始め、前年より6日遅い10月23日に終了した。平年に比べやや大玉で、糖度はやや高かった。

「平核無」は10月30日から収穫を始め、前年より1日早い11月11日に終了した。平年に比べやや小玉で、糖度はやや低かった(表1)。

表1 カキの生育と果実品質

品種	年次	発芽期	開花期(月/日)			収穫期		平均果重 (g)	糖度 (%)
			始期	盛期	終期	始期	終期		
刀根早生	2019	3/23	5/18	5/20	5/22	10/16	10/23	254	16.0
	2018	3/26	5/16	5/18	5/21	10/1	10/17	282	15.0
	2017	4/3	5/21	5/22	5/24	10/4	10/25	256	15.8
	2016	3/21	5/15	5/16	5/18	10/7	10/21	273	17.0
	2015	3/26	5/15	5/17	5/19	10/2	10/19	287	15.9
	平年	3/29	5/21	5/23	5/25	10/5	10/20	243	15.2
平核無	2019	3/23	5/18	5/20	5/22	10/30	11/11	265	15.4
	2018	3/27	5/16	5/18	5/21	10/22	11/12	295	17.4
	2017	4/4	5/21	5/22	5/24	10/29	11/15	282	15.6
	2016	3/21	5/15	5/16	5/18	10/24	11/7	279	16.2
	2015	3/26	5/15	5/17	5/19	10/23	11/5	293	16.5
	平年	3/29	5/21	5/23	5/25	10/25	11/10	276	16.1

(2) 地域状況

あわら市の「平核無」は11月10日に集荷が終了した。着果数がやや少なく台風の影響で落果や傷果が増加したため、収穫量は平年より少なかった。あんぼ柿、干し柿の生産が本格的に行われている。落葉は、平年並みに進んでいる。

4 イチジク

(1) 地域状況

若狭管内の集荷は、11月下旬～12月上旬まで継続する予定である。

対策

各樹種共通

1 苗木の植付け

樹種によって苗木の植付け適期は異なる。

多くの落葉果樹では、雪解け後になると根の伸長が始まり、活着不良により枯死することもあるので、できるだけ休眠の深い年内に植付けを完了する。

植付けは、晴天が続いた後で、土壤水分が少ない状態で作業を行う。前月の情報に従って植え穴を準備し、根が露出しないよう5cm程度の覆土を行うが、接ぎ木部が土の中にかくれてしまわないように注意する。植付け後は、凍害や野ウサギの害を防ぐために、稲わらなどで苗木を覆う。

年内に植え付けできなかった落葉果樹、またはミカン等の常緑果樹で年内に苗木を入手した場合は、結束されている束のまま、砂壤土などで排水良好な場所に仮植えする。覆土後に十分量のかん水を行った上で、地上部全体にワラや寒冷紗などを巻き付け、寒風による落葉や野生動物の食害を防ぎながら越冬させる。融雪後は3月末までに遅れることなく植付けを行う。

2 基肥の施用

11月下旬から基肥の施用時期に入っている。まだ施用していない園地では12月上旬までに施す。地域・樹種ごとの施肥指針に基づき施用する。

3 整枝せん定

落葉果樹でせん定せずに降雪期を迎えると、積雪や着雪によって枝折れが発生しやすくなるので、本格的な降雪シーズン前にせん定作業を進める。特に、ナシ・ブドウ・キウイフルーツなどの棚栽培果樹では、着雪による棚の倒壊を防ぐため、年内に粗せん定を済ませる。

ミカン等の常緑果樹では、冬期間の落葉を防ぐため、ムシロや寒冷紗等で樹冠全体に防寒被覆を行い、融雪後(3月頃)の温暖な日にせん定を行う。

樹種別に特に注意すべき事項は以下のとおりである。

(1) ウメ

地域・園・樹や栽培管理によって花芽のつき具合や結果枝数は異なるので、せん定前に花芽のつき具合や樹勢(新梢の伸び・太さ・数など)をよく観察する。

「紅サシ」では、直射日光が当たるような側枝は樹脂障害果の発生が多いので、立ち枝側枝よりも骨格枝に近い部位から発生した緑枝(弱勢な発育枝)を積極的に残し、2～3作程度利用可能な側枝として活用する。

「新平太夫」や「福太夫」は樹勢が強いため、骨格枝の上面に発生した新梢を残すと翌年に徒長枝が発生して良好な側枝を得られないことが多い。骨格枝の側面から発生した弱勢な新梢(目安：基部まで緑色で長さ30～50cm程度)を残して側枝に養成する。

(2) ナシ

樹冠の拡大に伴い、密植状態になっている園では縮・間伐を計画的に行う。

成木のせん定は、100～150cm前後の長さの側枝を40cm間隔でまんべんなく配置できるように、主枝および亜主枝(1主枝当たり2～3本)を配置する。3～4年以上経過して、花芽が少なくなった古い側枝は更新して若返りを図る。主枝、亜主枝は真っ直ぐ養成し、先端部は他の部位よりも30～40cm程度高くなるように立ち上がり部を設ける。

(3) カキ

樹齢が10年を超えた頃から隣接樹と枝が交差して過密状態になってくるので、縮・間伐を実施する。

永久樹については作業しやすい樹形にするため、主枝先端部は立ててやや強めに切り返す。亜主枝は1主枝当たり2本程度にする。長大化した側枝は整理し、新梢の発生を促して、側枝をまんべんなく配置する。

4 雪害防止対策

(1)降雪前

各樹種とも粗せん定を急ぐ。

混みあっている部分は、着雪を少なくするため、不要な枝や徒長枝の間引きせん定を実施する。

ナシなどの棚栽培では中支柱を入れるなど棚の補強対策を行う。支線がゆるんで棚が低くなっている場合は、棚締めを行う。吊棚は、積雪による加重が棚に均等にかからない場合があり、少ない雪でもバランスを崩して倒壊する危険性があり注意する。

幼木は結束して樹冠を縮めるか、幹に添わせて支柱を立て、支柱の先端から枝を吊り上げる(図1)。成木では、主枝等の主要な枝に下からタル木などの支えをあてがい、骨格枝の折損を防止する。

(2)降雪中・降雪直後

降雪中や降雪後は園内を見回り、枝に付着した雪を払い落とし踏圧する。

雪に埋まった樹や枝は放っておくと雪の沈降で裂開する。多量の降雪があったら、融雪が進まないうちにすみやかに雪中から枝を掘り出し、タル木などのつかい棒をあてがい、枝を持ち上げる。

幼木が積雪によって傾いた場合は、早急に引き起こし、支柱を添えて固定する。

枝折れや枝裂けした場合は、被害が軽い時はヒモや縄等で緊縛して枝の接合をはかる。大きく裂開して枝の接合が困難な場合は切り戻しを行い、癒合剤を塗布する。

(3)ハウス等の施設

積雪までにパイプの直径や密度、補強の有無など施設の強度を考慮して、必要か所にパイプなどを立てて降雪前に補強を実施しておく。

休眠状態を保持するためブドウなどのハウス栽培では、冬期間は大部分のビニールを格納するが、妻面の近くや連棟ハウスの谷間付近にビニールが残る構造の場合は、降雪時に細心の注意を払い、施設上に積雪しないように雪かきを行う。また、天井ビニールをアーチ最上部へ巻き上げる構造の場合には、左右から巻き上げた2本のビニール上を別のビニールで被覆し、アーチ最上部に積雪しないように対策を行う。

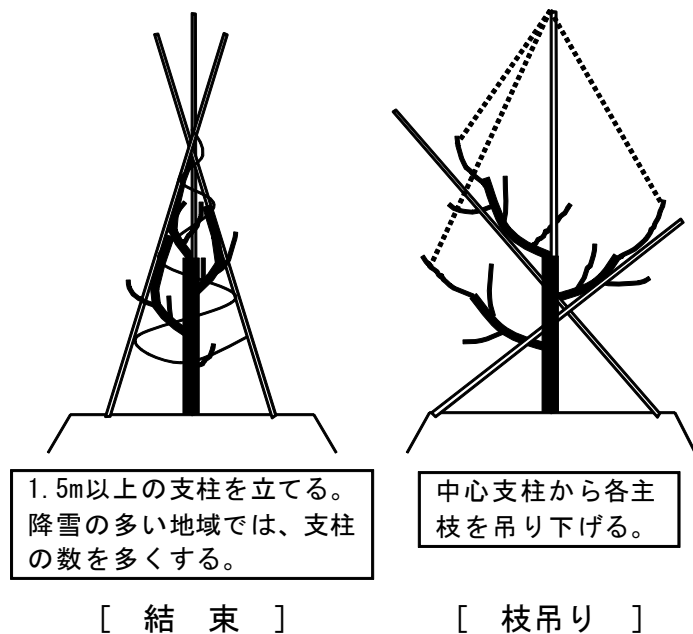


図1 幼木の積雪対策